



第1ブロック(北海道・東北) 青少年赤十字指導者研究会 開催

9月10日、県内外から多数のお客様をお迎えして、JRC指導者研究会が本校で開催されました。青少年赤十字は「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」を実践目標として「気づき、考え、実行する」態度目標を通して活動することにより、望ましい人格形成に重要な役割を担っています。今年、7年に1度の北海道東北ブロック研究会が福島県で開催されるにあたり、青少年赤十字に加盟して89年目を迎える伝統ある本校が、学校公開を行うこととなりました。



<事後研究会でグループ協議する参観者>

校長からの学校経営方針の説明の後、2学年と6学年が授業を公開しました。授業においても、(課題や友達の考えに)気づき、(自分で深く)考え、(発表したり書いてまとめたり生活において実践したりと)実行する態度は養われていきます。事後分科会では、下学年部会は、福島大学学校臨床支援センター長 宗形潤子先生、上学年部会では、白河市立信夫第一小学校長 木村真一先生から、指導助言をいただき、有意義な研究会となりました。

これからも本校の伝統である青少年赤十字活動に積極的に取り組み、人道(やさしさと思いやり)の精神を身に付けた主体的に生きる児童の育成に努めて生きたいと思えます。



<多くの参観者を前に授業にしっかりと取り組む2・6年生>

○身近な川の通信簿「阿武隈川」の成績は？

3年生の社会科の授業の一環として、国土交通省河川事務所提供による事業「川の通信簿」が実施されました。地域の方々とともに、県庁裏の阿武隈川に出向き、観点ごとに川の環境について成績を付けていきました。昔の船着場であった歴史や水辺の多様な昆虫や動物たちとのふれあいなどを通して、普段何気なく眺めている川のよさや改善するところなどに気づいたようです。身近な環境に関心をもち、ふるさとの美しい川を大切に作る心が育ってほしいと思えます。

